

アルゼンチンの ペロン関係資料

宇佐見 耕一



ところがペロン政権は一九五五年にクーデターで崩壊し、一九七三年に大統領に選出されるも翌年死去し、その後継を副大統領であった後妻のイサベル・ペロン (Isabel Perón) が継ぐが一九七六年に再度軍事クーデターが起こりイサベル・ペロン政権は崩壊した。こうした二度のクーデターにより、ペロンおよびエバ・ペロンに関係した資料は破棄されるか散逸してしまっ

た。こうした状況を前に、一九九〇年代に筆者は、連邦議会図書館本館で手続きを行い、議事堂内部の分室でペロン関係の資料を調査したことがある。現在でも議会図書館のホームページよりペロンとエバの演説を検索することができる。

その後ペロン関係の資料の収集と研究は、フアン・ドミンゴ・ペロン歴史・社会・政治研究所が中心となっている。同研究所は、国立図書館に隣接した旧大統領官邸にある。一九五二年にエバ夫人が死去したのもこの場所である。ここでは、ペロンの発言や執筆した文書をまとめてシリーズとして刊行され、それらの出版物は目次のみ同研究所のホームページで見ることが出来る。また同研究所で発行されている冊子Cuadernoにもペロンやペロニズムに関する研究およびペロン関係の文書が掲載されている。Cuadernoは全文を同研究所ホームページからダウンロードすることができる。

エバ・ペロン関係の文書の収集と研究は、社会福祉事業を行ってきたエバ・ペロン財団 (Fundación de Ayuda Social María Eva Duarte de Perón) の臨時宿泊所であった建物を再利用したエビータ博物館 (Museo Evita) <http://www.museoevita.org/> が中心をなしている。同図書館には、クーデターにより廃止されたエバ・ペロン財団関係の資料や、エバ自身、また彼女や同財団の関係者についての資料が幅広く収集され、その一部は同博物館において展示されている。筆者も同図書館にて、エバ・ペロン財団の財務表や就業規則など多くの貴重な資料を目にすることができた。

第二次世界大戦後のアルゼンチンにおいてフアン・ドミンゴ・ペロン (Juan Domingo Perón) は、三度大統領に選出され、彼の創設したペロン党 (Partido Justicialista) はその死後も今日に至るまで政治的に大きな影響力を保っている。同党は、一九八三年の民主化後もメネム (Menem)、『ドゥアルデ (Duarte)』キルチネル (Kirchner) そして現クリスティーナ (Cristina) と大統領を輩出してゐる。また、ペロン大統領の夫人エバ・ペロン (Eva Perón) も社会福祉に尽力し、今なお国民の間で根強い人気を保っている。この様なわけでは、アルゼンチンの戦後史、また政治研究の中心にペロンおよびペロニズム研究が位置づけられている。

○年代のメネム・ペロン党政権によりペロン関係の資料の収集と研究が行われることとなった。一九九五年には大統領令により国立ペロン中将記念委員会 (Comisión Permanente Nacional de Homenaje Teniente General Juan Domingo Perón) とフアン・ドミンゴ・ペロン歴史・社会・政治研究所 (Instituto Nacional Juan Domingo Perón, de Estudios e Investigaciones Historicas, Sociales y Politicas) <http://www.jpiperon.gov.ar/index/index.html> が設立された。

当初資料の収集は、議会図書館 (Biblioteca del congreso de la Nación Argentina) <http://www.bcn.gov.ar/> が中心となって行われ、連邦議会図書館の議事堂内分室にペロン関係の演説や公文書等が集められて